

Esri User Conference

藤沼 拓巳 (早稲田大学想像理工学部建築学科卒)
TAKUMI FUJINUMA

はじめに

学部生時代の研究内容进行评估いただき、Young Scholar Award(YSA)を受賞しました。受賞に伴い、アメリカのサンディエゴで開催された2018 Esri User Conference (UC)に参加する機会をいただきました。

UCとは、米Esri社主催の、世界中からGISユーザーが集まる世界最大規模の国際会議です。

世界各地からArcGISを用いた研究成果や、ビジネス、マップが集まり、GISのさらなる発展に向けたディスカッションや交流が行われていました。世界各地から選ばれたYSA受賞者たちや、研究者たちとの刺激的な出会いもあり、素晴らしい体験となりました。

Plenary Session

サンディエゴに到着した次の日には、これまで体験したことのないような規模のセッションに参加しました。

創業者のジャック・デンジャモンド氏の挨拶からスタート。「Inspiring What's Next」をテーマに基調講演や展示をデザインしているとのことで、この一年の振り返りとこれからのGISについて語っていました。

また、重要なアップデートのデモンストレーションや、GISの発展に寄与した人をステージに呼んで讃えるという時間もありました。

個人的には、Boston Planning & Development Agencyで活用されるという、ArcGIS Urbanを利用して



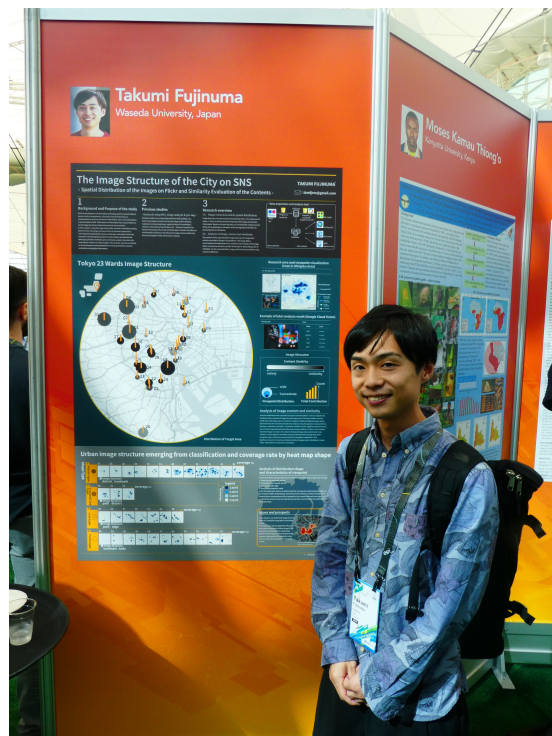
↑ UCの会場であるコンベンションセンター



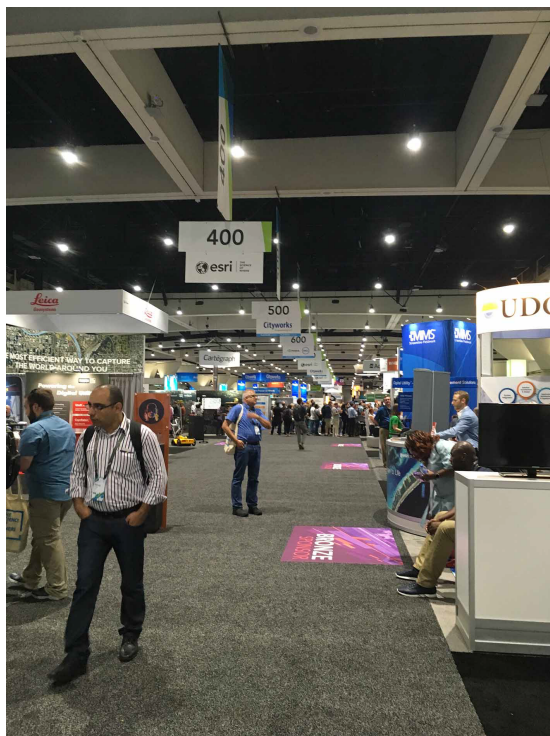
↑会場から見たサンディエゴ湾の様子



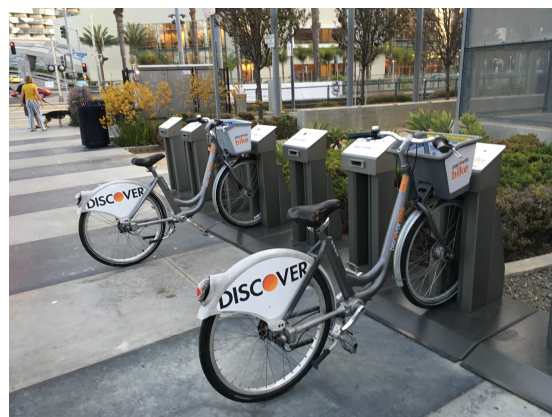
↑会場内の様子 - ギフトショップ -



↑ポスターセッション会場



↑展示ブースの様子



↑市内のいたるところにレンタルモビリティ

たいと考えています。
会場の規模や熱気、プレゼンテーションのクオリティなど全てに圧倒されました。

カンファレンス内容

会場内では、初心者向けから玄人向け、各専門分野特化など、様々なテクニカルワークショップが開かれていました。私は Python を用いた GIS の機能拡張のワークショップに参加しました。

そこでは、専門家もちろん参加していましたが、一般市民（子連れの親や、リタイア後の夫婦など）も参加していて、関心の高さを実感しました。また、GIS を用いたサービスやスタートアップの展示ブースも大々的に用意されていました。

2 日目には、YSA 受賞者含めマップギャラリー応募者によるポスターセッションが行われました。自分の研究内容の説明をしつつ、他の参加者の説明を聞いて回るという時間で、GIS がどれだけ広い分野に価値提供しているかを理解しました。

授賞式と交流会

3 日目の夕方には、GIS の先進の利用を進める各国の団体に贈られる SAG 賞 (Special Achievement in GIS Award) と、私が頂いた Esri Young Scholars Award の授賞式がありました。日本からの SAG 賞は JAXA 様が受賞し、ともに授賞式に参加しました。

受賞後には各国の YSA 受賞者との記念撮影や立食パーティが行われ、それぞれの研究や興味、旅の話などを通して彼らとの交流を深めました。

4 日目の夜には、市内のバルボアパーク（面積約 4.5 km²）を貸し切ったの交流パーティが開かれ、他の参加者の方々との交流の機会を得ることができました。



↑ 各国 YSA 受賞者と創業者 jack との記念撮影

↓ YSA 授賞式会場にて



↓ バルボアパークでのパーティの様子①



↓ バルボアパークでのパーティの様子②



おわりに

今回 UC で得た経験、知識、人脈というのは本当にかげがえのないものです。1 年に 1 回のこのイベントは世界中の GIS ユーザーに有益な情報を相互に発信することで、各々のアイデアが混ざり合い、新たな GIS に関する知見が創造される場であることを体感できました。最後に、米国 Esri ユーザー会の参加にあたり、ESRI ジャパン株式会社の皆様方、指導教官の矢口教授、その他関係各位に多大なご支援とご協力を頂きました。末筆ながらここに記して深甚の謝意を表します。